学校法人ノースアジア大学広報

さくら

SAKURA

2008.07 *July* No. 216

CONTENTS

02／ 学科長からのメッセージ
03／ 看護福祉大「福祉学科」に改称／観光学科スタート
04／ シティカレッジレポート　講演「エッセイの書き方」内館牧子／コンサート開催／森づくり活動
05／ 入学試験日程決まる
06／ オープンキャンパス／平成20年度予算
07／ 平成19年度決算
08／ 駐日ベネズエラ大使講演会／その他インフォメーション

ノースアジア大学「学びのカタチ」ー学科長からのメッセージー

経済学科長　鈴木　達郎

経済学科では、「学生の自発性を育てる」をモットーに、入学時から卒業まで連携するカリキュラムを組み、きめ細かな教育をおこなう体制を整えました。

ひとつは初年時教育の充実、もうひとつは２年次以降の学生の支援体制の見直しです。

初年時教育として、高校の授業から大学の講義へと学びかたが変わることに対応することができるように、ノートテイキング、リーディング、ライティングなどの方法を教える実践的な科目を設定しました。また、経済学の初歩をしっかり学ばせ、基礎力を定着させる科目も設定しています。

２年次以降の学生に対する支援については、これまでのゼミナール中心の指導から、経済学科全体で責任をもって、学生を育てる体制へと変更しました。

学生個々人から将来目標などの情報を収集し、それを踏まえて、学科の教員が学生の到達段階に応じたアドバイスを行います。学生には、講義やゼミを通して潜在的な力量を高めると同時に、「目に見える成果」を獲得するよう指導しています。具体的には、キャリアセンターや警察官・公務員対策室などとの連携を強めながら、ファイナンシャルプランナー、旅行業務取扱管理者、医療事務、簿記（とくにファイナンシャルプランナー）などの資格取得に取り組み、また公務員試験対策に早期から取り組むよう勧めています。「目に見える成果」が、勉学意欲を高め、将来目標実現への動機付けになることはいうまでもありません。

このような初年時から卒業年次までの継続した支援によって、学生が新たな自分を発見し、可能性の扉を開くことになると考えています。

マネジメント学科長　小山内　幸治

マネジメント学科では、経営学、流通論、簿記・会計学、情報などの理論科目やビジネスゲームなどの実践科目の習得を通じて、実務に直結した『**マネジメント力**』を身につけることができます。そしてさまざまな職種に幅広く対応する『**仕事力**』と『**就職力**』を養成することができます。マネジメントというのは、企業や組織を効率的に管理運営し発展させていくことですから、『マネジメント力』はあらゆる職業で必要とされています。

学生が将来達成したい目標を設定し、その目標達成に向けた努力を継続させるために、新入生対象にパーソナル・アドバイザー制度を設けました。これは２～４人の学生に対し１人の教員が週に１回定期的に面談し、学生指導・資格取得や就職を含めてさまざまな相談に応える制度です。学生指導や学習支援だけではなく学生とのコミュニケーションを重視しています。これを効果的に行うためにコーチングという指導手法を用いて、モチベーションを継続させ、自分の設定した目標を達成させることを目指しています。この制度によって学生と教員のコミュニケーションは格段によくなったような気がします。

高度なスキルを持っていることを証明したいという思いがある人にはその資格取得を支援していきます。資格は、企業や社会が評価している資格に重点をおいて指導して行きたいと考えています。税理士などを目指す学生には、税務会計研究室で厚く支援します。現在、１年生にも税理士志望者が10名いますが、それらの学生を対象にした簿記の指導は４月からすでに40回以上行っており、在学中に税理士試験合格者を出すことを目標に指導しています。また、国家資格である情報処理技術者試験の指導も行っています。

このほか、先輩が後輩をサポートするためのマネジメント学科懇談会を開催しました。

これを通じて学生同士の縦のつながりを作っていきたいと考えています。また横のつながりについても大学祭などに参加し、一緒に仕事をすることで新しい交友関係を広げていってもらいたいと思います。

法律学科長　木村　澄

法律学科では、日本社会を活力のある健全なものにするためには、リーガルマインド（法的思考力）をもち、人間性豊かな企業人や公務員が必要とされていると考え、そのリーガルマインドを育み現代社会に貢献することのできる人材の育成を教育目的としています。

そのために学生の将来の志望進路に合わせて「警察官・公務員コース」「法律事務職コース」「企業管理職コース」「ジャーナリズムコース」の４つのコースを設け、学習の指針を示しています。

本学科の教育の大切な目標の一つは「学生の人間性の開発」です。学生の「成長の可能性」を大切にして、教員がその確信を抱かせるような様々な方法を用いて継続的に努力することになります。

これを具現化するため、今年の新入生に対して新たな取り組みをしています。教養ゼミナールがそのひとつです。ここでは10～11人の学生に対し教員を2人配置し、前期は学習の基本であるリーディング、ライティング、プランニングを指導します。後期では裁判所や警察署、新聞社などを訪れ、2年次から始まる専門ゼミの導入としてその動機づけとなるように刺激を与えます。

また、ピアリーダー制度も取り組みのひとつです。本学科のピアリーダーは、新入生研修会で1年生に対して履修方法や学生生活全般についての相談など、きめ細かなサポートをします。今後も「学習スキル」や「就職スキル」などについてもアドバイス・サポートを行なっていく予定で4年間を通じて行なわれます。学生同士が「教えあい」「高めあう」という大学の風土を培うことによって、学生生活の活性化を促進するシステムとして機能していくと考えます。

観光学科長　石山　あつむ

観光学科はこれまでの教育の枠にとらわれない、新しいコンセプトの教育にチャレンジし、「専門性」と「社会性」を兼ね備え、観光産業（分野）において日本及びアジアでリーダーとなって活躍できる人材の育成を図ります。

観光に関する専門知識を身につけることは当然のこととして、それに加え私の30余年の社会人経験に基づき、社会や企業が望む人材、つまり「社会で活躍できる人材」の育成を目指します。そのための指導の基本を「①自分で調べる　②自分で考える　③自分でまとめる　④周囲にはたらきかける」におき、能動的に行動できる学生を育成します。また、学生の考えを尊重し一人ひとりに合った指導・アドバイスを行い、各自が「興味とやる気」を持って学べるようにします。学生自身が自ら考え、自分の考えをまとめ、それを基に仲間と議論を展開し、そして結論を導き出せるようになるためのグループワークや、現地や企業に出向いて調査などを行い、社会を肌で感じることのできるフィーフドワークにも力を入れ、「学ぶ・知る・実践する」ことが楽しいと感じられる学科を目指します。

さらに、ANA系列のシンクタンク㈱ANA総合研究所をはじめ、県内自治体およびホテルその他の企業と提携を行い、それらを生かして実社会での仕事の面白さ、楽しさ、そして厳しさを実感できる「実学」を展開して行きます。

卒業後の進路に関しても、その実現に学生が自ら計画的に取り組む指導を行います。

以上の実現に向けて、教員は単に知識を与えるのではなく、学生の可能性を広げるためのヒントやアドバイスを与えられるように、学生一人ひとりに常に関心を持って臨みます。

また、多様化している社会の求めに応じるには、英知の結集が必要であるとの判断のもと、教員が「チーム」を組み、定期的に、また必要に応じてミーティングやブレーンストーミングを行い、基本となる考えや教育コンセプト、方向性などを「共有」します。これによって、全体として一定の方向を目指しながら、その中に各教員のキャラクターを生かし、真に多様化に対応できる人材の育成を図っていきます。

秋田看護福祉大「福祉学科」に改称 精神保健福祉士養成は県内初

秋田看護福祉大学では、平成21年４月より、「社会福祉学科」の名称を「福祉学科」に改めます。併せて、社会福祉士及び介護福祉士法等の一部改正に伴い、カリキュラムも全面的に変更する予定です。これにより、平成21年４月入学生からは、単位取得によって、従来の社会福祉士・介護福祉士受験資格に加え精神保健福祉士の受験資格も取得可能になります（介護福祉士は法改正により受験資格になりました）。

精神保健福祉士を養成する大学は県内初となります。精神科病院などの医療機関のみならず、市町村保健センターなどの福祉行政機関、障害者の自立支援事業所のほか教育機関や民間企業のメンタルヘルス部門などで、精神に障害をもつ人やその家族の相談に応じ、社会復帰に関する助言や指導、日常生活への適応訓練、関係機関との連絡調整など、その地域生活や就労を支援するのが精神保健福祉士の主な業務になります。また、要介護老人のうち認知症の高齢者が全国で150万人を数え、その精神保健業務にも精神保健福祉士が従事しています。

このほかカリキュラムの再編成により、「福祉学科卒業＝福祉施設で働く」という固定されたイメージを変えるため、公務員・企業人の育成も可能な授業科目も配置します。福祉という観点から物事を考えることができる、そして自ら行動できる、このような人材は福祉の現場だけではなく、社会全体が必要としています。

人が人としての尊厳を持って生きていける社会を築く、「福祉学科」ではそのような福祉マインドを持った人材育成を目指します。

観光学科スタート 「知る・学ぶ・実践する」学びを展開

この４月からノースアジア大学では観光学科を開設しました。本学科は、指導の基本を「自分で調べる、自分で考える、自分でまとめる、周囲にはたらきかける」におきます。学生の考えを尊重し、一人ひとりに見あった指導・アドバイスを行い、各自の「興味とやる気」を刺激します。

また、現地や企業に出向いて調査などを行うフィールドワークを取り入れ、「知る・学ぶ・実践する」学びを展開します。

さらに、ＡＮＡ系列のシンクタンクである㈱ＡＮＡ総合研究所との連携をはじめ、県内自治体及び航空会社、ホテルなど多くの企業と提携を行い、実社会に近い教育を展開していきます。

カリキュラムの特徴

ホスピタリティ

ホスピタリティ関連科目の開講

観光学科では、ホスピタリティ科目が必修科目です。ホスピタリティは、人々を「もてなす心」のことをいい、観光において最も大切な要素の一つです。また、観光関連の企業だけでなく、あらゆる職種において求められ、社会人として身につけておきたい養素です。

語　学　力

観光学科では、語学力の養成に力を入れます。外国人観光客をもてなし、日本の海外旅行者を案内するためには、必要不可欠です。

そのために、外国人による英会話の授業を必修科目とするほか、観光に関する英語の講座も設けています。また、中国語やハングルなどの習得にも力を入れ、一人ひとりが、それぞれの仕事において必要とされるレベルに応じた語学教育を実施します。

実学としての フィールドワーク（スタディ）の実施

実践を重視する観光学において、フィールドワークは大切な要素です。学生時代から実社会のなかで活動し、「社会との段差をなくす教育」を実践したいと考えています。この一環として、多くの市町村および企業・団体と連携などをしています。

⑴　秋田県内の自治体との連携

県内７市町との観光に関する協定締結。

小坂町、男鹿市、仙北市、にかほ市、湯沢市、八峰町、鹿角市

⑵　エアラインとの連携

ANA 系列のシンクタンク㈱ANA 総合研究所と観光に関する協定を締結し、講師派遣などを受けています。

⑶　旅行会社、ホテル産業との連携

日本旅行などの旅行会社や秋田市内のホテルと観光に関する協定を結んでいます。

韓国語プログラム参加

観光学科１年生が交流協定校である東亜大学校（韓国・釜山市）で“2008ノースアジア大学韓国語プログラム”に参加します。同プログラムは８月20日から26日にかけて実施され、韓国語初級コースを中心に韓国文化（韓服・キムチ作り）体験、シティツアー（釜山市内観光名所・名跡）やフィールドリップ（慶州）などに参加することにより、韓国語と韓国文化を体験する１週間の短期交流プログラムです。

期間中、本学学生は東亜大学校の学生寮に宿泊し、また同大学生がチューターとして学生の生活をサポートし、相互の交流を深めます。

このような生きた語学力習得と外国文化を体験する絶好の機会に、多くの学生が参加できるように、本学ではプログラム参加への負担を軽減できるよう支援しています。

ハングル講座

このほど国際コミュニケーションセンターで昼休み時間を利用したハングル講座が行なわれています。講師を韓国・慶熙大学からの留学生である魏善化（ウィソナ）さんと池素瑛（ジソヨン）さんが務めています。

学生たちは空き時間を利用して、ハングルの挨拶や基本的な会話、ハングルの読み書きなどを学んでいます。観光学科生の多くは８月に韓国・東亜大学校を訪れ、韓国語研修プログラムを受講するため、その準備としても学習に力が入っています。

この４月から設置された国際コミュニケーションセンター（法学部棟４階）では、日本語の使用を制限し、講師や学生同士の会話は全て外国語（英語、中国語、韓国語）を原則とし、コミュニケーションを取ることになっています。観光学科生、観光奨学生らが楽しみながら語学力を身につける場として利用されています。

内館牧子氏 講演会を開催 「エッセイの書き方」をテーマに

4月25日、本学40周年記念館271教場で、脚本家で本学総合研究センター客員教授の内館牧子氏による講演会が開催されました。

「エッセイの書き方」をテーマに、これまでに執筆した大河ドラマや連続テレビ小説、現在連載中のものについて取り上げ、また日常生活の中での出来事を織り交ぜての講演になりました。講演の中で内館氏は「エッセイの書き方については、ルールは無く、書きたいものを書くのが基本。しかし、文章表現の基本的な知識は必要である。一番大事なことは、他人に読んでもらうことを前提に書くこと。また、テーマ＝切り口を絞ることが大切で、脚本や長い小説を書くときもテーマを１行にまとめることができるかを考える。絞ったテーマを切り方や視点は、頭を柔らかくしてセンスの見せ所となる」などエッセイ執筆のコツを指導しました。

「ノースアジア大学文学賞」の新設に合わせた講演会であったこともあり、約400人の聴講者には熱心に聞き、メモを取る姿が多く見られました。

ノースアジア大学 ウィンドオーケストラ・コンサート開催

初夏に爽やかな演奏楽しむ

6月7日、秋田県民会館でノースアジア大学ウインドオーケストラ・コンサートが開催されました。会場を訪れた約1,000人が多彩な音楽を楽しむ盛大なコンサートとなりました。

このウインドオーケストラはノースアジア大学・秋田栄養短期大学の吹奏楽部と明桜高等学校の吹奏楽部により結成されたもので、「四川大地震救援募金」のためのチャリティー・コンサートを兼ねて行われたものです。

第一部はクラシック編で、美しい音色でおなじみの名曲が演奏されました。続く第二部はグレン・ミラー・オーケストラナンバーが並ぶビッグバンド編。FM秋田「ほろ酔いジャズナイト」のパーソナリティを務める岸部有三氏の司会・進行で、聴衆も手拍子をしたりリズムに乗ったりと会場は大いに盛り上がりました。最後の第三部ポップス編では、ディープ・パープル・メドレーやボサノバを吹奏楽でアレンジしたもの、また日本のポップスが演奏され、演奏者と聴衆が一体となり楽しめるものとなりました。

四川大地震救援の募金は5月30日に行なわれた観光学講演会開催時に寄せられた募金と合わせて52,956円にのぼり、6月9日、同部部員らによりNHK秋田放送局に届けられました。

学生・教職員などが ぶなの植樹に参加 森づくり活動

6月8日、八峰町水沢山（世界自然遺産登録地域周辺部）において、ノースアジア大学が共催する「ＡＮＡ私の青空　大館能代空港　白神の森づくり」が開催されました。本学から学生・教職員関係を含め18人（地元八峰町、秋田県内外から約200人を超える）が参加しました。

この社会貢献活動は、ＡＮＡのシンクタンクである㈱ＡＮＡ総合研究所との連携協定を期に始めたもので、山にブナを植え、森の育成に参加することにより、自然の偉大さを知り、自然との共存のあり方を探る目的で2004年度から10ヵ年計画で順次展開しているものです。本学は昨年10月に続き、２回目の参加となります。

参加者の中には急な斜面に足を取られる様子も見られましたが、それぞれがぶなの苗木をしっかりと植えていました。

今回初めて参加した学生からは「今まで平地での植樹は体験したことがあった。山に植樹するのは初めてだったが、楽しかった」と話してくれました。

2009年度　入学試験日程決まる

ノースアジア大学、秋田看護福祉大学、秋田栄養短期大学の平成21年度入学試験日程が決定しました。各校とも平成20年に実施するＡＯ、推薦入試区分を掲載しています。（一部除く）昨年度との主な変更点は次のとおりです。

[ノースアジア大学]

昨年度と大きな変更点は無いものの、９月入学試験区分を設け、また外国人留学生特別入学試験区分を３期まで設けるなど国際化教育の推進を図り、外国から本学への入学の機会を増やしました。

[秋田看護福祉大学]

看護学科では大きな変更点はありませんが、福祉学科（届出予定）ではＡＯ入学試験を1回に変更し、推薦入学試験に前期・後期を設けました。

ノースアジア大学入試ガイド（経済学部・法学部）

AO入学試験

区分	募集人員（名） 経済	マネジ	法律	観光	出願期間	試験日	試験地	合格発表日	試験内容
Ⅰ期	15	6	15	9	8／21(木)～9／3(水)	9／7(日)	秋田・仙台	9／11(木)	面接
Ⅱ期					9／19(金)～10／8(水)	10／12(日)		10／16(木)	
Ⅲ期					11／4(火)～11／19(水)	11／23(日)		11／27(木)	

推薦入学試験

区分	募集人員（名） 経済	マネジ	法律	観光	出願期間	試験日	試験地	合格発表日	試験内容
指定校Ⅰ期※奨学生 公募Ⅰ期※奨学生▲ 学園内高校※奨学生	55	15	55	18	10／10(金)～10／29(水)	11／2(日)	青森・秋田・盛岡 仙台・山形・郡山	11／6(木)	課題文・面接
専門学科・総合学科※奨学生									課題文・面接・書類審査
指定校Ⅱ期※奨学生 公募Ⅱ期※奨学生▲	10	4	10	3	11／27(木)～12／10(水)	12／14(日)	秋田・仙台	12／18(木)	課題文・面接

※奨学生を希望する者は試験成績により決定する。▲観光学科地域推薦枠を含む。

社会人入学試験

区分	募集人員（名） 経済	マネジ	法律	観光	出願期間	試験日	試験地	合格発表日	試験内容
Ⅰ期	2	1	1	1	8／21(木)～9／3(水)	9／7(日)	秋田	9／11(木)	面接
Ⅱ期					9／19(金)～10／8(水)	10／12(日)		10／16(木)	
Ⅲ期					10／10(金)～10／29(水)	11／2(日)		11／6(木)	
Ⅳ期					11／4(火)～11／19(水)	11／23(日)		11／27(木)	
Ⅴ期					11／27(木)～12／10(水)	12／14(日)		12／18(木)	
Ⅵ期					1／8(木)～1／21(水)	1／25(日)		1／29(木)	
Ⅶ期					2／2(月)～2／18(水)	2／22(日)		2／26(木)	
Ⅷ期					3／2(月)～3／16(月)	3／20(金)		3／26(木)	

９月入学試験

区分	募集人員（名） 経済	マネジ	法律	観光	出願期間	試験日	試験地	合格発表日	試験内容
９月入学者試験	1	1	1	1	6／18(水)～7／4(金)	7／11(金)	秋田・仙台・東京	7／17(木)	小論文・面接・書類審査

外国人留学生特別入学試験

区分	募集人員（名） 経済	マネジ	法律	観光	出願期間	試験日	試験地	合格発表日	試験内容
Ⅰ期	2	2	2	2	8／1(金)～9／30(火)	10／12(日)	秋田 ※	10／16(木)	面接・書類審査
Ⅱ期					10／1(水)～11／28(金)	12／14(日)		12／18(木)	
Ⅲ期					12／1(月)～1／30(金)	2／22(日)		2／26(木)	

※その他、本学が指定する会場で行う場合がある。

秋田看護福祉大学入試ガイド

福祉学科（届出予定）

区分	定員	エントリーシート受付期間	第一次面談日	第二次面談日	面談場所	出願適否連絡日	出願期間	合格発表	選抜方法
ＡＯ入学試験	5	9／1(月)～9／12(金)	9／20(土)	10／4(土)	大館市（秋田看護福祉大学）	10／10(金)	10／14(火)～28(火)	11／7(金)	エントリーシート、面接、出身校の調査書を参考

区分		定員 明桜高校	一般公募	出願期間	試験日	試験地	合格発表日	試験科目
推薦入学試験	前期	3	9	10／14(火)～28(火)	11／1(土)	大館市（秋田看護福祉大学）	11／7(金)	総合問題、小論文、面接（個別）
	後期		2	12／2(火)～16(火)	12／20(土)		12／25(木)	

看護学科

区分		定員 明桜高校	一般公募	出願期間	試験日	試験地	合格発表日	試験科目
推薦入学試験	前期	4	12	10／14(火)～28(火)	11／1(土)	大館市（秋田看護福祉大学）	11／7(金)	総合問題、小論文、面接（グループ）
	後期		3	12／2(火)～16(火)	12／20(土)		12／25(木)	

秋田栄養短期大学入試ガイド

看護学科

区分		募集人員	出願期間	試験日	試験地	合格発表日	試験内容
ＡＯ入学試験		4名（男・女）	9／19(金)～10／8(水)	10／12(日)	秋田　仙台	10／16(木)	面談　書類審査
推薦入学試験	指定校	42名（男・女）	10／10(金)～10／29(水)	11／2(日)	秋田	11／6(木)	面接　書類審査
	一般						面接　書類審査　小論文
	学園内高校	5名（男・女）					面接　書類審査
専門高校入学試験		4名（男・女）	10／10(金)～10／29(水)	11／2(日)	秋田	11／6(木)	面接　書類審査

紙面の都合上、出願資格を割愛しています。昨年度と変更になった区分がありますので、入学試験に関する詳細については下記までお問い合わせ下さい。

［ノースアジア大学・秋田栄養短期大学］入試広報課　TEL 018-836-1342　E-mail nyushi@nau.ac.jp
［秋田看護福祉大学］学務課入試係　TEL 0186-43-6510　E-mail wwwadm@well.ac.jp

ノースアジア大学、秋田栄養短期大学では６月22日に2008年第１回オープンキャンパスを開催しました。

県内外から約100人の高校生・保護者の参加があり、各学科の紹介や大学での講義体験、公務員希望者へのポイント解説がありました。このほか学生食堂のランチ体験やキャンパスツアーは在学生がサポートし、その際の交流を通じて大学・短大の先輩たちが大学での講義や課外活動についても語りました。また、高校教諭と保護者に対する面談や就職相談会も行なわれました。

2008年 第1回 オープンキャンパス開催

今後のオープンキャンパスは７月27日、８月31日、９月21日と３回の開催を予定しています。参加申し込み等については下記、入試広報課までお問い合わせください。

ノースアジア大学・秋田栄養短期大学　入試広報課
〒010-8515　秋田市下北手桜字守沢46-1
TEL：018-836-1342　FAX：018-836-2485
E-mail:nyushi@nau.ac.jp

平成20年度予算

平成20年度予算は３月25日の理事会、評議員会において承認されました。これによると平成20年度の資金収支予算は総額6,739,427千円となりました。

〔収支予算概要〕

平成20年度の主な事業として、観光学科開設、完成年度となる看護福祉大に係る設備投資、キャリア教育、就職・資格取得指導を重視した各研究室運営経費などで教育研究環境の充実を図ります。

収入については、従来どおり学生生徒等納付金、入学検定料や証明書発行などの手数料のほか、国や地方公共団体からの補助金等です。一方、支出については、社会貢献、地域連携を深めるための各種講演会・講座開講や国際交流推進に係る経費、学生支援を充実する就職指導経費、各種奨学費、学外施設実習費などの教育研究経費並びに観光学科開設など学部改革に係る経費、学生・生徒募集経費などの管理経費です。また大学・短大校舎の外壁補修に係る調査などの学園環境整備経費に併せて、学園の将来に備えてノースアジア大学減価償却引当特定預金、施設・設備等修繕引当特定預金などの組み入れは継続して行っています。

＜平成20年度資金収支予算書＞

収入の部　（単位　千円）

科　目	本年度予算	前年度予算	増(△)減
学生生徒等納付金収入	2,268,330	2,470,698	△ 202,368
手数料収入	27,654	32,928	△ 5,274
補助金収入	939,804	1,381,480	△ 441,676
資産運用収入	62,895	75,067	△ 12,172
資産売却収入	0	1,300	△ 1,300
事業収入	246,242	264,313	△ 18,071
雑収入	81,736	370,406	△ 288,670
前受金収入	462,407	439,106	23,301
その他の収入	420,204	451,101	△ 30,897
資金収入調整勘定	△ 536,090	△ 873,201	337,111
前年度繰越支払資金	2,766,245	3,442,067	△ 675,822
収入の部合計	6,739,427	8,055,265	△ 1,315,838

支出の部　（単位　千円）

科　目	本年度予算	前年度予算	増(△)減
人件費支出	2,521,774	2,772,113	△ 250,339
教育研究経費支出	751,804	941,918	△ 190,114
管理経費支出	208,727	292,717	△ 83,990
施設関係支出	2,000	8,400	△ 6,400
設備関係支出	22,798	57,910	△ 35,112
資産運用支出	449,585	1,006,529	△ 556,944
その他の支出	635,471	703,995	△ 68,524
［予備費］	50,000	50,000	0
資金支出調整勘定	△ 251,000	△ 544,562	293,562
次年度繰越支払資金	2,348,268	2,766,245	△ 417,977
支出の部合計	6,739,427	8,055,265	△ 1,315,838

〈千円未満は切り捨てで表示〉

＜平成20年度消費収支予算書＞

収入の部　（単位　千円）

科　目	本年度予算	前年度予算	増(△)減
学生生徒等納付金	2,268,330	2,470,698	△ 202,368
手数料	27,654	32,928	△ 5,274
寄付金	1,000	2,000	△ 1,000
補助金	939,804	1,381,480	△ 441,676
資産運用収入	62,895	75,067	△ 12,172
事業収入	246,242	264,313	△ 18,071
雑収入	81,736	370,406	△ 288,670
帰属収入合計	3,627,661	4,596,892	△ 969,231
基本金組入額合計	△ 23,100	△ 462,688	439,588
消費収入の部合計	3,604,561	4,134,204	△ 529,643

支出の部　（単位　千円）

科　目	本年度予算	前年度予算	増(△)減
人件費	2,521,774	2,745,078	△ 223,304
教育研究経費	1,269,604	1,484,277	△ 214,673
管理経費	230,287	309,615	△ 79,328
資産処分差額	302	1,002	△ 700
徴収不能額	11,160	12,800	△ 1,640
［予備費］	50,000	50,000	0
消費支出の部合計	4,083,127	4,602,772	△ 519,645
当年度消費支出超過額	478,566	468,568	
前年度繰越消費収入超過額	130,662	599,230	
翌年度繰越消費収入超過額		130,662	
翌年度繰越消費支出超過額	347,904		

〈千円未満は切り捨てで表示〉

平成19年度決算

平成19年度決算は、5月29日の理事会、評議員会において承認されました。

平成19年度はキャリアセンターを設置、同センターに警察官・公務員試験対策室、行政研究室、観光研究室、司法研究室、税務会計研究室の5つの研究室を配置し、難関試験対策や資格取得に向けての指導強化・学習環境の整備を図っています。資格取得者奨励制度や観光奨学生制度の導入など、学生の将来に向けた学習・教育研究活動の支援を充実させています。このほか、名称変更に伴い、新名称の浸透を図るため、広告・メディア等を通じて積極的な広報活動を展開しました。

時代にふさわしい学園の組織運営を目指していますが、少子化の進行に伴い、学園を取り巻く状況は一段と厳しいものになっています。

このような状況にありながらも本法人は、高等教育機関として教育・サービスの個別化を図り、地域・社会に求められる人材の育成に努めてきました。グローバル化が顕著に進展する今日、国際理解を深め、視野を広げることが出来るように海外高等教育機関や行政府と学術交流協定を結び、いっそうの国際交流の充実を図りました。

〔19年度決算概要〕

収入については、学生・生徒等納付金、国庫補助金、秋田県からの運営費補助金等で収入済額8,305,359千円となりました。

支出については、前述のとおり教育研究活動の充実及び国際交流推進を図ったほか、減価償却、施設・設備等修繕などに備えて積み立てを行いました。

また、消費収支決算においては、施設・設備修繕費等として424,053千円を基本金に組み入れた結果、当年度収支消費差額は12,624千円の支出超過となったものの、翌年度への収入超過額は1,396,323千円となりました。

平成19年度資金収支計算書

収入の部

（単位　千円）

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	2,470,698	2,489,332	△ 18,634
手数料収入	32,928	34,532	△ 1,604
補助金収入	1,381,480	1,526,693	△ 145,213
資産運用収入	75,067	128,360	△ 53,293
資産売却収入	1,300	1,311	△ 11
事業収入	264,313	304,983	△ 40,670
雑収入	370,406	381,054	△ 10,648
前受金収入	439,106	438,763	342
その他の収入	451,101	427,533	23,567
資金収入調整勘定	△ 873,201	△ 869,273	△ 3,927
前年度繰越支払資金	3,442,067	3,442,067	0
収入の部合計	**8,055,265**	**8,305,359**	**△ 250,094**

支出の部

（単位　千円）

科目	予算	決算	差異
人件費支出	2,822,113	2,826,182	△4,069
教育研究経費支出	941,918	839,009	102,908
管理経費支出	292,717	268,714	24,002
施設関係支出	8,400	2,541	5,859
設備関係支出	57,910	49,585	8,324
資産運用支出	1,006,529	1,006,528	0
その他の支出	703,995	703,950	44
［予備費］	△ 50,000		
	0		0
資金支出調整勘定	△ 544,562	△ 538,511	△ 6,050
次年度繰越支払資金	2,766,245	3,147,359	△ 381,114
支出の部合計	**8,055,265**	**8,305,359**	**△ 250,094**

〈千円未満は切り捨てで表示〉

平成19年度消費収支計算書

（単位　千円）

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	2,470,698	2,489,332	△ 18,634
手数料	32,928	34,532	△ 1,604
寄付金	2,000	917	1,082
補助金	1,381,480	1,526,693	△ 145,213
資産運用収入	75,067	128,360	△ 53,293
資産売却差額	1,300	1,311	△ 11
事業収入	264,313	304,983	△ 40,670
雑収入	370,406	381,054	△ 10,648
帰属収入合計	4,598,192	4,867,185	△ 268,993
基本金組入額合計	△ 462,688	△ 424,053	△ 38,634
消費収入の部合計	**4,135,504**	**4,443,131**	**△ 307,627**

（単位　千円）

科目	予算	決算	差異
人件費	2,795,078	2,799,147	△4,069
教育研究経費	1,484,277	1,354,237	130,039
管理経費	311,515	287,451	24,063
資産処分差額	1,002	865	136
徴収不能額	12,800	14,055	△1,255
［予備費］	△50,000		
	0		0
消費支出の部合計	**4,604,672**	**4,455,756**	**148,915**
当年度消費支出超過額	469,168	12,624	
前年度繰越消費収入超過額	599,230	1,408,948	
翌年度繰越消費収入超過額	130,062	1,396,323	

〈千円未満は切り捨てで表示〉

平成19年度貸借対照表

（単位　千円）

資産の部

科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	24,050,300	23,700,337	349,963
有形固定資産	13,458,849	13,940,636	△ 481,786
その他の固定資産	10,591,450	9,759,700	831,749
流動資産	3,504,061	3,683,429	△ 179,367
資産の部合計	**27,554,361**	**27,383,766**	**170,595**

（単位　千円）

負債の部

科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	312,930	339,965	△ 27,035
流動負債	1,121,330	1,335,128	△ 213,798
負債の部合計	1,434,260	1,675,094	△ 240,833
基本金の部			
第1号基本金	22,667,303	22,637,723	29,579
第2号基本金	900,000	900,000	0
第3号基本金	761,473	367,000	394,473
第4号基本金	395,000	395,000	0
基本金の部合計	24,723,776	24,299,723	424,053
消費収支差額の部			
翌年度繰越消費収入超過額	1,396,323	1,408,948	△ 12,624
消費収支差額の部合計	1,396,323	1,408,948	△ 12,624
負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部			
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	27,554,361	27,383,766	170,595

〈千円未満は切り捨てで表示〉

駐日ベネズエラ大使が講演・・・「ベネズエラと日本の関係」知る好機に・・・

6月20日、ノースアジア大学国際センター主催の駐日ベネズエラ大使講演会「ベネズエラと日本」が40周年記念館271教場で行われ、約200人が聴講しました。

講師となったセイコウ・ルイス・イシカワ・コバヤシ駐日ベネズエラ大使は、「ベネズエラは石油、天然ガス、アルミニウム、金などの鉱物資源が豊かであり、美しい自然・景観など観光資源にも恵まれた国」と紹介し、また「国と国の距離とは、地理上の距離ということではなく、その国や人のことをどれだけ理解しているかということであると思う」と述べました。

続いてイシカワ大使は、ベネズエラの地理上の位置について、カリブ海、アマゾン（熱帯雨林）やアンデス（山脈）など地理的特徴のある自然観光資源について、また、その国土面積、人口や気候、政治体制など同国の概要を説明。そのほか現在は民主主義に基づき、国の成長に向けて多くの社会政策が進められ、経済成長も好調で発展性の高い国であることを語りました。

その後の質疑応答では「現大統領が進める新たな社会主義とは」「ベネズエラの美人コンテストについて」など多彩な質問があり、ベネズエラについてさまざまな角度から理解を深める貴重な講演会となりました。

セイコウ・イシカワ大使は、1972年ベネズエラ南東部シウダ・ボリバル生まれの日系2世。父親は沖縄県出身で母親は山梨県出身。ベネズエラの大学からハーバード大学大学院に進み、駐日経済・貿易参事官などを経て、2005年10月に日系人として初めて大使に就任されました。

また、このたびの講演会は、阿曾村邦昭・法学部教授が1994年から4年間にわたり、駐ベネズエラ大使を務めたこと、また現在も日本ベネズエラ協会会長を務めるなど同国との友好に尽力していることから開催されることとなったものです。

『高杉祭』開催 Precious Day～大切な日～

7月5日と6日の2日間にわたり、ノースアジア大学・秋田栄養短期大学大学祭である「高杉祭」を開催しました。

開祭式では、前田直樹高杉祭実行委員長が「今回は、“Presious Day～大切な日”をテーマにした大学祭です。学外から来ていただいた多くの方、また出店や準備等にご協力いただいた方々にも御礼を申し上げます。そして学園（大学・短大・高校・幼稚園）の学生生徒・教職員と全体で行うことができる喜びを感じています」と挨拶しました。

続いて「土崎港はやし」がスタートし、高杉祭の開催をいっそう盛り上げました。

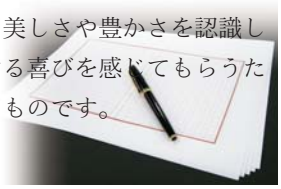
初日のイベントは、連携先である仙北市有志による「角館飾山囃子」の演奏、また、多くの出店や催事への呼びかけもあり、会場内は「祭り」の雰囲気でいっぱいでした。

2日目は、秋田市内の小学生や一般の団体による「よさこい演舞」や男鹿市有志による「なまはげ太鼓」が披露され、また、ステージで行なわれた「Joelle ミニコンサート」では、透明な歌声が観客を魅了しました。

このほか、わらび座による特別公演「ひびき　わくわくコンサート」など多彩なイベントが開催され、キャンパスは大変な賑わいを見せました。

第一回 ノースアジア大学文学賞

本学総合研究センターでは、内館牧子氏などを審査員に迎えて今年初めて「ノースアジア大学文学賞」を創設し、広く作品を募集します。この文学賞は、若い人達に文章を書くことを通じて、日本語の持つ美しさや豊かさを認識しそれを表現する喜びを感じてもらうために創設したものです。



応募要項

【応募締切】2008年9月1日（月）必着
【発　　表】2008年10月25日（土）文学賞授賞式

部　門	Ⅰ　高校生の部（課題作品、または自由作品） Ⅱ　大学生・一般の部（自由作品）
応募内容	どちらの部もオリジナルで未発表のエッセイを募集いたします。 高校生の部のみ課題作品まはた自由作品を選んで応募してください。 課題は次の通りです。「生きがいと仕事」 自由作品の場合は、タイトル・内容にまったく規定はありません。 応募枚数は、課題作品・自由作品ともに400字詰め原稿用紙7～10枚以内です。
応募規定	①表紙または、1枚目冒頭にタイトルと氏名を必ず明記してください。原稿用紙は縦書きで使用してください。ワープロ原稿の場合は、40字×30行で印字してください。（どちらの場合も一冊に綴じて提出してください。） ②住所、氏名、電話番号、年齢、職業、略歴を明記した別紙を添付し、総合研究センターまでご郵送ください。（できれば応募要項に添付された用紙を使用してください。）
応募資格	アマチュアに限ります。年齢・学歴等は不問。

平成20年7月7日　編集・発行　理事長総室　〒010-8515 秋田市下北手桜字守沢46-1　Tel. 018-836-6527 Fax. 018-836-3321 URL. http://www.nau.ac.jp/